

# 中間文書館によるアルゼンチン国家 およびコルドバ州各行政記録の管理

Recordkeeping with Intermediate Archives of Argentine National  
and Cordoban Provincial Administration

則竹 理人

NORITAKE, Rihito

## 要 約：

20 世紀に提唱された、半現用の公的記録専用の施設をおく手法は、アルゼンチンの国家やコルドバ州各行政記録管理でも、現用機関外におかれ、記録管理の統括機関が運営する「中間文書館」の導入にみられる。しかし国家行政では、規模に見合った環境整備ができないなかで、一時期に大量の記録が移管されたのを契機に、施設としての中間文書館の機能が維持できなくなり、新たに確保された現行の設備も不十分なことが明らかになった。またコルドバ州行政では、中間文書館特有の記録の評価選別や保存処置は行われず、記録の経過期間よりも保存場所の空き状況優先で管理体制を決めていると判明した。電子媒体での記録の生成が増える今日、半現用の記録を管理するための段階の設置について再検討が求められるなかで、アルゼンチンでは紙媒体の記録管理でも中間文書館機能の意義が不明瞭な実態がみられる。

キーワード：アルゼンチン、コルドバ州、記録管理、中間文書館、半現用、評価選別

## はじめに

公的記録<sup>1</sup>の管理では一般的に、「現用」（記録が作成、受信、収集された部局や機関でよく利用され、通常は近くで保管される）の状態ではないが「非現用」でもない、「半現用」の記録に関して、最終移管先に送る前に一時的に収蔵し、永久保存か廃棄かの評価選別を行う施設をおくのが望ましいとされてきた（Duranti and Franks 2015: 343）。しかし、公的記録はオンラインで一元管理可能な電子媒体で生成される事例が増えていて、半現用の記録を管理するための段階を設ける意義は従前と同様とはいえず、再検討が必要だ。

半現用の記録を扱う施設は、現用機関の傘下におかれるものと、現用機関外におかれ、記録管理の統括機関が運営するものに大別される（Duranti and Franks 2015: 343）。スペインでは、後者の種類の施設は「中間文書館」（*archivo intermedio*）と呼ばれ、同じ言語圏であるラテンアメリカの一部の国々でもこの名称が用いられる（則竹 2022: 80-81）。スペインでは、非現用になっても継続保存が決定した記録は「歴史文書館」（*archivo histórico*）と呼ばれる施設に移管される（則竹 2022: 80-81）。スペイン語圏ラテンアメリカ諸国の国家行政記録管理では、多くの場合「国立（総合）文書館」（*Archivo Nacional* または *Archivo General de la Nación*）という名称の施設が該当する。

国立（総合）文書館自体も、現用機関外の記録管理統括機関であり、国立（総合）文書館傘下の中間文書館もいくつかみられる。その一例がアルゼンチンで、国立総合文書館（以下、AGN）の一部局として「中間文書館部」（*Departamento Archivo Intermedio*）がおかれる。

アルゼンチンは連邦制国家だが、AGN や傘下の中間文書館はあくまでも国家レベルの記録管理を行う<sup>2</sup>。各州や自治市レベルの記録管理は各々に委ねられ、必ずしも国家の手法と同様ではない。たとえばコルドバ州では、州歴史文書館（*Archivo Histórico Provincial de Córdoba*）という施設がある一方、州政府文書館（*Archivo de Gobierno de la Provincia de Córdoba*）という施設も別途あり、州行政記録は両館で管理される。ただ、両館とも傘下に中間文書館はおいていない（後述）。他方、1961 年に AGN の機能を定めた法律（法律第 15930 号）の第 9 条で、同館は国家行政傘下の唯一の文書館と述べられ、複数館で管理するコルドバ州行政記録とは異なる体制が示される。

ラテンアメリカで同じく連邦制国家のメキシコやブラジルの場合、記録の生成から永久保存または廃棄までの利用の変化（ライフサイクル）を踏まえた管理を、国内各州も含め包括規定する法令が存在する<sup>3</sup>。アルゼンチンの場合は、国全体どころか国家レベルでも同様の規定はみられない。州レベルでは、記録のライフサイクルも規定した法令が一部みられるが<sup>4</sup>、前述のコルドバ州を含

<sup>1</sup> 英語の“record(s)”と“(archival) document(s)”の区別に基づいて、当該分野の日本語文献では「記録」と「文書」がよく区別される。ただ、スペイン語では“documento(s)”が両者を表し区別は明示的ではないため、本稿では一律「記録（群）」と示す。なお、記録管理施設の意味で「文書館」という語を用いる通例には従う。

<sup>2</sup> 1961 年に AGN の機能を定めた法律（法律第 15930 号）の第 2 条で、管理対象は国有の記録と述べられたほか、州レベルの公文書館に言及し、それが別途存在するのを示した。

<sup>3</sup> メキシコでは「アーカイブズ総合法」（*Ley General de Archivos*）が、ブラジルでは「公的、私的アーカイブズに関する国の政策やその他の措置を規定する」法律第 8159 号が制定された。なお本稿では、“archivo/arquivo”が記録群や文書館など多義的に用いられる場合、「アーカイブズ」と示す。

<sup>4</sup> たとえばサンタフェ州では、1992 年に州のアーカイブズシステムを構築する法律（法律第 10870 号）が制定された。

め、多くの州では連続的な記録管理の規定は存在しない。

法令による強制力がない環境下での中間文書館を取り巻く実態には、設置意義を探る手がある可能性が高い。それを踏まえ、本稿ではアルゼンチンのなかでも、記録管理に関する法制度の整備が不十分ながら、ウェブサイトや各種報告から中間文書館の存在が確認される、アルゼンチン国家とコルドバ州の各行政記録管理に着目する。2022 年 10～11 月に行った現地での現状調査で判明した情報を交えながら、各中間文書館の役割、存在意義を考察する。そして、記録の利用の変化に合わせた段階的な記録管理のあり方の、今後の分析、検証の可能性を提示する。

## 1. アルゼンチン国家行政の事例

### (1) 先行文献の整理

AGN 傘下の中間文書館は、1977 年に組織内に部として設けられたことに端を発する<sup>5</sup>。1980 年頃からは独自の拠点も構え、文書館として機能し始めた。設立当初は、各国家行政機関の記録を受けて管理を行うと想定された。

1989 年には、メネム政権の国家改革法で公的機関の民営化や廃止が進められた。2005 年に行われた第 6 回メルコスル・アーカイブズ学会議<sup>6</sup>での、中間文書館部の職員の同館に関する報告では、国家改革を機に同館の様相が異なってしまったと述べられた（Pak Linares 2005: 3-4）。民営化機関や廃止機関にあった記録が一斉に移管され、当初設けられた保存場所は埋まってしまった。1995 年、1997 年にそれぞれ新たな保存場所が確保され、1998 年には 1997 年に確保された現在の場所に中間文書館部の拠点が移された。しかし、国家改革前から財政面の問題で保存場所や人員が不足していたなかで、追い討ちをかけるように発生した記録の大量移管で、事態は改善しなかった。

世界規模の組織である国際アーカイブズ会議（International Council on Archives）の傘下に、2009～12 年に活動した「イベロアメリカの記録の評価選別」というプログラム委員会があった<sup>7</sup>。その成果のひとつに、アルゼンチンの国家行政記録の評価選別の実態を述べたものがある（Cipolletta y Pak Linares 2012）。そこでは、中間文書館はその収蔵記録群を踏まえれば、歴史文書館（次の段階）とみなせる状態と示される。また、記録の評価選別は各機関で行われ、永久保存となったものが中間文書館に収蔵されるとも記された。2012 年時点、前節冒頭に示した手法と異なり、半現用の記録を各機関から集約して評価選別を行い最終移管先（AGN 本館）に引き継いでいたわけではないとかがえる。

記録の保存期間は、種別にまとめられた「行政手続きの最短保存保護期間表」（決議第 44-E/2016 号）に示され、各機関は同表に基づき評価選別を行う。同表は、書類のアーカイブズやデジタル化に関する国の政令（1131/2016 号の第 4 条）により行政現代化局が定めたものである。ただ、従前

<sup>5</sup> “[Archivo Intermedio](#).” Ministerio del Interior, (2023 年 5 月 2 日閲覧).

<sup>6</sup> アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイが加盟するメルコスル（南米南部共同市場）の形成に伴い、アーカイブズ活動も地域連携の必要性が取りざたされ 1996 年より始まった（[第 13 回のウェブサイト](#)）。なお、メルコスルの枠に限らずイベロアメリカ各国からの参加がみられる。

<sup>7</sup> “[Proyecto Evaluación de Documentos](#).” Facultad de Filosofía y Humanidades, Universidad Nacional de Córdoba, 2012.

の記録評価選別基準の「人件記録と管理記録の最短保存期間表」(国の政令第 1571/1981 号で承認、現在は無効)は一部の機関には認知されていなかったため (Cipolletta y Pak Linares 2012)、新表も効力が疑われる。

一方、中間文書館部の職員が各機関と直接やり取りし、記録管理に必要な専門的アドバイスを提供するとも述べられた (Pak Linares 2005: 4-5)。Cipolletta y Pak Linares (2012) でも、中間文書館としての機能は各機関で果たされると示される。記録管理への関与を最終移管先に至る前に行い、施設ではなく担当部局としての中間文書館機能の実現を試みている。

## (2) 現地調査での現状の確認

2022 年 11 月 1 日、AGN 傘下の中間文書館を訪問し、パク・リナレス氏より聞き取り調査を行った。通常、中間文書館は広さが求められ、利便性を度外視し都市の郊外に設置される例がよくみられるが、訪問した施設は首都の市街地にあった。そのためか、中間文書館専用の建物ではなく、他の公的機関も入居する建物の 2 階と 4 階を共用していた。2 階には 3 つの書庫、4 階には 1 つの書庫と執務室があった。大量の記録の搬入を想定し、文書館には地上階に車が直接入れる場所を用意するのが望ましいとされる。しかし、地上階には館の共用部分がなく、また共用する 2 つの階が離れており、中間文書館として十分機能するための設備と評価するのは難しい。

不十分さは、収容可能な空間の広さにもみてとれた。Cipolletta y Pak Linares (2012) では、厚さ合計 18km の記録を収蔵できる広さがあると示されたが、パク・リナレス氏によれば、各機関から記録を受けて管理する本来の中間文書館としての役割を果たすには、厚さ合計 200km ほどの記録を収蔵できる空間が必要だそうだ。

同館には全部で 16 人の職員がいて、半分が記録管理にかかる課程を学修したと聞いた。記録管理に関する助言を各機関に行うだけなら十分かもしれないが、各機関から記録を受けて管理する本来の役割を果たすには少ない。

パク・リナレス氏への聞き取り調査の後、別の職員に執務室と同じ階の書庫を案内してもらった。書庫に入ると、文書館では見慣れない多数の金属の箱に気づいた (写真 1)。記録の保存箱として用いられていたが、紙の長期保存には、酸化の恐れがある金属製品への収納は望ましくない。職員もその意識は当然あり、中性紙の箱に移し換えたいが、財政面から叶わないようだ。Pak Linares (2005) でも言及された財政面の状況は変わらず、むしろ記録に直接影響を及ぼしうる部分にも配慮できないほど甚大だとうかがえた。





写真1 金属の箱で埋まる AGN 傘下の中間文書館の書庫（2022 年 11 月 筆者撮影）。

## 2. コルドバ州行政の事例

### (1) 先行文献の整理

コルドバ州政府文書館は、州歴史文書館よりも先に 1905 年におかれた「省庁文書館」(Archivo de los Ministerios) がもとになっている<sup>8</sup>。1941 年には州歴史文書館の設置が法律で規定され、1943 年には州政府文書館収蔵の 1902 年までに生成された記録が州歴史文書館に移管された。州政府文書館局のページ<sup>9</sup>には、同館が扱う対象は 40 年を経過していない行政府の記録の原本と示される。当時の移管記録が 1902 年までに生成されたものなのは、この線引きに基づく。

コルドバ州政府文書館の 2012 年当時の状況報告では、同館には 40 年以上経過した記録群があり、本来は州歴史文書館に移管されるべきとされた (Arias, Brunero, y Uslenghi 2012: 66)。2016 年の文献でも、40 年を優に経過した記録が州政府文書館に収められていると示され、州歴史文書館に空きがない状況に起因するとも記された (Ravina 2016: 16)。

一方、コルドバ州歴史文書館が新しい建物に移転して開館するのを機に、将来的には州歴史文書館が最終移管先、州政府文書館が中間文書館として機能する可能性が提示された (Arias, Brunero, y Uslenghi 2012: 68-69)。過去に州歴史文書館に古い収蔵記録が移管された事実や、管理対象の記録の経過期間に上限を定めたことから、州政府文書館は本来、中間文書館としての機能を有していたとかがえる。州歴史文書館への移管が不能となり、州政府文書館は実質的には永久保存記録の最終移管先 (歴史文書館) として機能してきた。しかし、州歴史文書館の移転で、同館に再

<sup>8</sup> “*Reseña Histórica*.” Gobierno de la Provincia de Córdoba, (2023 年 5 月 2 日閲覧).

<sup>9</sup> “*Dirección de Archivo de Gobierno de la Provincia de Córdoba*.” Gobierno de la Provincia de Córdoba, (2023 年 5 月 2 日閲覧).

び記録を受ける余裕ができる見込みから、州政府文書館が本来の中間文書館の機能に立ち戻る可能性が示された。

1941年に州歴史文書館の設置を定めた法律（法律第3967号）の第2条では、同館は州内の公的機関の記録で構成されると規定され、行政記録に限らない点、また基礎自治体レベルの記録も含める点で州政府文書館とは異なる。40年を経過した州行政記録は州政府文書館から州歴史文書館へ移管される、本来の体制が維持されていれば、40年以上前の州に関する調査を行いたい場合、州歴史文書館に行けばあらゆる出所の適当な記録が閲覧できる。ただ、40年を経過した州行政記録が州歴史文書館と州政府文書館に分散する実情では、調査内容次第では両館を訪問する必要がある、利便性に弊害がある。

州歴史文書館は2015年に移転したが<sup>10</sup>、2017年には同館に1903～74年生成の州政府文書館収蔵記録が移管された（Brunero 2019: 187）。また、1975～2012年の各機関生成記録を州政府文書館に集約したとも記された（Brunero 2019: 187）<sup>11</sup>。州歴史文書館の移転を機に州政府文書館が再び中間文書館として機能するという、Arias, Brunero, y Uslenghi（2012）での見解は現実となったとうかがえる。

なお各機関では、州の政令第1659/1997号で示された「保存期間および最終処理」の表（記録種別に永久保存か何年保存後の廃棄かを記載）を適用し、評価選別を行う。同政令は、州の政令1782/2017号で一部変更されたが依然有効で、前述の州政府文書館局のページでも同政令の適用状況の検証が同館の機能のひとつと示される。

## （2）現地調査での現状の確認

2022年10月28日、コルドバ州政府文書館を訪問し、同館の職員のブルネロ氏らに聞き取り調査を行った。AGN傘下の中間文書館と同様、州政府文書館は州都の市街地にあり、専用の建物ではなく他の公的機関も入居する建物の中2階にあった。州レベルとしても、決して良環境とはいえない施設だった。

州政府文書館は再び中間文書館として機能していたが、40年を経過した記録も収蔵されていた。2017年にまとめて記録の移管が行われて以降、訪問時までには移管の実績がないという情報も得た。ブルネロ氏は、2017年の記録移管で保存場所に空きができ、まだ余裕があるのを理由とした。記録を経過期間基準で段階を分けて管理する手法は、妨げだった保存場所の空き問題が解消されても復活せず、空き状況を基準とした判断が継続していた。

政令で規定された保存期間と最終処理に基づいて記録を評価選別しているかは、各機関で保存される段階で検証されるという情報も得た。永久保存記録のみが州政府文書館に移管されるため、同館での管理の段階では評価選別は行われよう。この観点では、施設としての中間文書館機能を果たしているとはいえず、単に最終移管先（州歴史文書館）に移る前の一時的な保管場所

<sup>10</sup> “[Archivo Histórico de la Provincia de Córdoba](#).” Agencia Córdoba Cultura, (2023年5月2日閲覧).

<sup>11</sup> 集約されたのは、決議や法令など文字記録に偏る（Brunero 2019: 188-189）。一方、州歴史文書館移転時に諸機関から州政府文書館を介さず移管された記録は地図や視聴覚記録（州歴史文書館に問い合わせで判明）で、州政府文書館を介す記録の種類に従前より条件があったととらえる。州歴史文書館移転前、州政府文書館に移管されず諸機関に永久保存記録が残される例があった（Arias, Brunero, y Uslenghi 2012: 67）のも記録種別が要因とみられるが、詳しい検証は別稿に譲る。

にすぎない。その結果、州歴史文書館との役割分担はおのずと曖昧になり、記録の経過期間といった理念的な基準ではなく、保存場所の空き状況といった現実的な基準が尊重されるのは無理もないのかもしれない。

中間文書館機能と歴史文書館機能の線引きの曖昧さは、州政府文書館内での記録の保存方法にも表れていた。写真2の政府の決議記録に例示されるように、記録は40年を経過しても別置されず、同じ環境、保存処置で新しい記録に連なり年代順に収蔵されていた。記録の経過期間に対する配慮、つまり中間文書館の段階を設ける必要性が希薄な状況がうかがえた。



写真2 コルドバ州政府文書館の政府決議記録架（2022年10月 筆者撮影）。

## おわりに

本稿ではまず、中間文書館と呼ばれる施設の定義とアルゼンチンでの実例に加え、同国の国家や一部の州では行政記録の連続的な管理を規定する法令がないことを確認した。つぎに、中間文書館の存在意義考察の手がかりとして、包括的な管理法令のないアルゼンチンの国家、コルドバ州各行政記録の中間文書館である、AGN傘下の中間文書館とコルドバ州政府文書館の経歴と現状を述べた。

国家行政記録管理では、十分な人員、設備、財源確保の難しさを抱えたなかで、政策的経緯で一時期に大量の記録が移管されたのを契機に、施設としての中間文書館は早々に破綻してしまい、設備面の満足な改良も行われず、今も同じ状態だと判明した。大規模な組織の記録ほど、物理的に集中させた管理に限界があると読み取れる。国家行政機関のなかで最も発展した記録管理を行っている国家社会保障機構（Administración Nacional de la Seguridad Social）の文書館も訪問したが、職員のプラロング氏は、自機関の記録を物理的に集中させて管理する従来の手法から、記



録自体は各事務所で保管しながらも統一的な規則で管理する手法に切り替えるのを目標としてい  
ると語った。同館は、もとは首都ブエノスアイレス市内にあったが現在は郊外にあり、専用の広大  
な敷地を有する。それでも記録の物理的な集中管理を避ける動きには、本質的な限界が表れてい  
るのだろう。

コルドバ州行政記録管理では、記録の移管の流れに着目すれば、近年になり中間文書館として  
の機能を復活させたようにみえるが、記録の評価選別や保存方法に着目すると、中間文書館特有  
の処置は行われなかったのが明らかになった。また、記録がその経過期間ではなく保存場所の空き具  
合次第で移管される状況からは、州歴史文書館の保存場所の空きが再びなくなった際に、中間文  
書館の機能もあわせて消失すると想像される。国家行政記録管理とは異なり、中間文書館の機能  
を復活させられる環境下でも、その段階の設定を生かす管理がみられず、持続可能性もうかがえ  
ない点からは、中間文書館を設けた管理の意義に疑念が生じる。

半現用の記録を専用の施設で管理する手法が唱えられた 20 世紀 (Duranti and Franks 2015: 343) は、技術革新で記録が電子媒体で扱われる事例が増えつつある今日とは異なる状況だった。  
一元管理や移送がオンラインで容易になるのを踏まえれば、記録の経年による利用の変化を想定  
した段階分けや管理場所の設置には、従来とは違う考え方が必要かもしれない。とくに、本稿でま  
とめたように紙媒体の記録管理でも実質的な意義が不明瞭な中間文書館は、従来の理論にとらわ  
れずに設置の必要性を検討すべきだろう。実態に即した適切な管理を行えるよう、記録の経年に  
伴う利用や評価選別の判断基準の変化について、現状の分析、検証が求められる。

## 引用文献

### 〈日本語文献〉

則竹理人 2022. 「スペイン中央行政記録の段階的管理の特性」『アーカイブズ学研究』(37): 80-93.

### 〈外国語文献〉

Arias, Norma I., Sofia Y. Brunero, y Juan Pablo Uslenghi 2012. “Archivo del Gobierno de la Provincia de Córdoba.” *Anuario Escuela de Archivología* (3): 65-69. <https://revistas.unc.edu.ar/index.php/anuario/article/view/12644>

Brunero, Sofia Y. 2019. “Archivo de Gobierno de la Provincia de Córdoba.” *Anuario Escuela de Archivología* (11): 185-193. <https://revistas.unc.edu.ar/index.php/anuario/article/view/30057>

Cipolletta, Elisabet, y Andrés Pak Linares 2012. “La valoración documental: Situación en la administración pública nacional de Argentina.” <https://blogs.ffyh.unc.edu.ar/evaluaciondedocumentos/producciones/>

Duranti, Luciana, and Patricia C. Franks 2015. *Encyclopedia of Archival Science*. Lanham: Rowman & Littlefield.

Pak Linares, Andrés 2005. “El Archivo Intermedio y la reforma del estado.” Ponencia presentada en el VI Congreso de Archivología del MERCOSUR, São Paulo.

Ravina, Aurora 2016. “De las fuentes a la historia: La mediación del historiador.” En Aurora Ravina et al. eds., *Archivos, fuentes e historia en la provincia de Córdoba (Argentina): Patrimonio histórico documental y prácticas historiográficas*. Córdoba: Centro de Estudios Históricos Prof. Carlos S.A. Segreti.: 9-42. <https://cehsegreti.org.ar/wp-content/uploads/2022/10/Ravina-2016.pdf>

(のりたけ・りひと／アジア経済研究所)